

平成30年度第1回精華町社会教育委員会議 会議録

■日時

平成30年4月10日（火）午後2時から3時まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- ・清水 真理子
- ・田中 智美
- ・上村 卓三
- ・白畑 丈子
- ・高鍋 房美
- ・吉川 博文
- ・尾崎 麻由美
- ・谷 譲二
- ・堀内 保寛
- ・村上 栄

■出席事務局職員

- ・教育長：太田 信之
- ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：石崎 勝巳
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：河西 聖子

■傍聴者

なし

■内容

【会議】

1 開会

2 平成30・31年度社会教育委員委嘱状の交付

太田教育長より10名の委員に対し、委嘱状を交付。

3 教育長あいさつ

太田教育長

- 新たな任期を迎え、10名の方に社会教育委員の委嘱をさせていただきました。

- 社会教育委員は、社会教育法に基づき、社会教育に関する諸計画の立案や提言、そのための調査活動を主な職務とする。さらに教育委員会の会議への出席、社会教育の関係者への助言など、幅広い仕事をしていただき、社会教育の要となり活動いただく。
- 教育大綱を策定して丸2年になる。その実現に向けて、新年度、教育委員会も新たな体制にもなり、新たな気持ちで取り組んでいきたい。
- 3月の町議会で今年度の予算案を全会一致で承認いただいた。その中で、中学校への空調設備の設置、中学校の学期制の3学期制の実施が進んだ。また、学校給食の実現に向け、昨年末に基本構想策定し一歩踏み出した。30周年となるせいか祭りは、子ども祭り連携し新たな展開で取り組む。
- 社会教育の活動拠点として、むくのきセンター、図書館集会室をもっと活用できないかと考えている。
- 人の体制は重要であり、社会教育主事の資格をもった職員を社会教育指導員として1名増員し、指導面の充実・強化を図っていきたいと考えている。
- 社会が変化する中で社会教育の果たす役割はますます大きくなっている。皆様方のお力をお借りしたい。

各委員より自己紹介。続いて、事務局職員より自己紹介。

4 議事

(1) 委員長、副委員長の選出について

事務局

- 社会教育委員の任務等について

「社会教育法」「精華町教育委員会基本規則」「精華町社会教育委員会に関する条例」「精華町社会教育委員会運営規則」に基づき説明

- 「精華町社会教育委員会運営規則」第2条により、委員の互選により委員長、副委員長を各1名選出。また、「社会教育委員会選任に関する指針」を考慮する。

⇒田中委員より、委員長：吉川委員、副委員長：高鍋委員を提案。

異議無しの声により提案どおり決定。

吉川委員長、高鍋委員長

- 委員長、副委員長としての席に移動し、着任のあいさつ。

(2) 各種委員の選任について

事務局

配布資料の説明と各種委員の紹介。今年度の社会教育事業の開催日程の確

認、昨年度社会教育委員として作成した「社会教育指導の重点」も含む「平成30年度精華町指導の重点」の確認等。

せいか祭りとの合同開催予定の今年度の子ども祭りについて説明。

●委員の互選により下記のとおり決定。

- ◆京都府山城地方社会教育連絡協議会・理事及び役員
：吉川委員長・高鍋副委員長
- ◆精華町地域で子どもを育てる連絡協議会委員：吉川委員長
- ◆精華町子ども祭り実行委員会委員：尾崎委員
- ◆精華町明るい選挙推進協議会委員：清水委員
- ◆精華町教育委員会所管施設指定管理者評価委員会：吉川委員長
- ◆町民文化賞・スポーツ賞選考委員：吉川委員長
- ◆青少年健全育成協議会協力委員：吉川委員長
- ◆いじめ問題対策委員会：村上委員
- ◆精華町子どもの読書環境づくり推進委員会：田中委員

(3) 今期の社会教育委員会の取り組みについて

吉川委員長

今日はある程度候補をあげておき、次回決定することとする。

- ・生涯学習の拠点であるむくのきセンターや図書館の現状と課題の視察
- ・様々な社会教育事業の具体的な内容等についての研修
- ・精華町コミュニティスクールについての研修
- ・他の自治体へのまちづくり・地域づくりの研修
- ・教育委員会とテーマを設けての交流
- ・世代交代・世代間交流

テーマではないかもしれないが、各種町内の団体の役員の成り手不足、ボランティアの減少、子ども会加入の減少などの課題がある中で、取り組んでいきたい。

田中委員

- ・世代交代・世代間交流の問題は非常に大きい。
- ・教育委員との交流が大事である。

白畑委員

- ・精華中学校の入学式で「PTA」ではなく「PTCA」と言われたが「C」とは何か。

村上委員

- ・「Community」のこと。精華中学校ではコミュニティ協議会を立ち上げている。町内では、精華中学校のみ。シニアの方の学習支援など、地域の方が入ることで、生徒指導等に非常に改善が見られる事実がある。精

華中学校のアピールポイントとしていこうと考えている。

田中委員

- ・町内全地域に啓発していってもらいたい。全地域で学校支援の協力体制ができています。

吉川委員長

- ・「PTAC」という言葉もある。この場合「C」は「Child」である。今まで行ってきたことだが、改めて言葉として入れている。

高鍋副委員長

- ・今年度から中学校も3学期制となる。今は月の半分は試験や先生の体制的に部活がなかったり、公園でボール遊びが禁止だったり、子どもの居場所、エネルギーを発散する場所が無くなってきているように思う。冷房のきいた学校内で自己管理能力を育てるのが難しいのではないかと。しかしそれを身に付けないといけない。英語自体を身に付けることも大切だが、言葉だけ身に付けば海外でなんでもできるわけではない、それ以外の力が大切との意見もあった。自分の身を守ることを教える機会があればと思う。
- ・学校の先生、学校評議員、学校サポーターとの交流。社会教育委員のことを知ってもらうことを行いたい。お互いに知ることで、社会教育活動へやりがいを持って進められる。

吉川委員長

子どもとのかかわりでは、いろいろあり、子ども食堂もあると聞いている。地域のサポートと学校がしっかり連携していければと思う。

- (4) その他
特記事項なし。

- (5) 次回委員会
平成30年5月14日（月）13時30分～

5 閉会